

小矢部市金屋本江 聖徳太子二歳像調査報告



令和6年10月22日
砺波市文化財審議委員前会長 日本石仏協会理事 尾田武雄

所在地 小矢部市金屋本江 281 番地

調査日 令和 6 年 10 月 4 日

調査者 西川康夫、吉國征樹、松田昭治、尾田武雄

法量 聖徳太子二歳像 51,5 センチ 幅 20 センチ

石材 砂岩質と思われる

像造年 背面に「明治四十一年申七月二十六日建之」とある。

刻字 背面に「寄進人 柴田清右エ門

荒木甚右エ門 」

背面に「明治四十一年申七月二十六日建之」

既往の調査・報告等

本石仏及び木造祠堂について記載したものに以下がある。

・『ふるさとの石仏 第八集 荒川、正得、若林、松沢地区』(昭和 62 年・小矢部市婦人ボランティア育成講座)

「太子像 彩色あり、太子様のまつりは七月二十六日」

・『金屋本江史』(平成 2 年・同編纂委員会)

「明治四十一年九月太子像を祭り八月十六日太子まつりも行って居た」

○地蔵菩薩三体

① 地蔵菩薩坐像 高さ 32 cm 幅 20 cm

丸彫で、念珠を両手に持つ

念珠を持つ地蔵菩薩は、六体地蔵の内一体である場合が多く、単独は珍しい。

台座に刻字あり

「 晤屋良重居士

豊屋善■居士 」

② 地蔵菩薩坐像 高さ 23 cm 幅 12 cm

丸彫で合掌している。シンプルなスタイルである。

裏面に墨書銘あり

「 明治三十三年

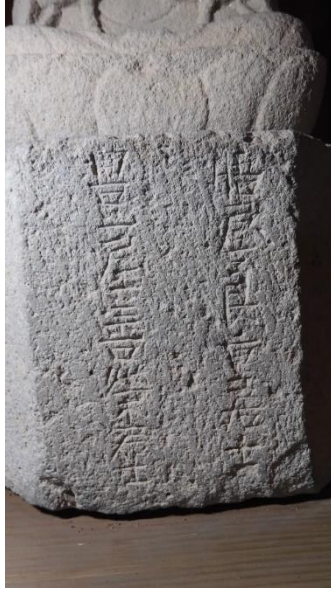
釈尼妙言

■■■ 」

③ 地蔵菩薩坐像 高さ 32 cm 幅 14 cm

浮彫で舟形向背である。右に蓮を持ち、左は阿弥陀如来の与願印、このスタイルも珍しい。

① 地藏菩薩坐像



② 地藏菩薩坐像



③ 地藏菩薩坐像



○お堂

地蔵①は金屋本江字馬場 5847 番地の火葬場にあった。明治 22 年廃止となり、金屋本江鴨太郎 3416 番地の 2 外 3417 番地に同年春日堂として地蔵を安置する。その後昭和 25 年に御堂を改築、昭和 60 年に正面アルミサッシ戸を設置、昭和 44 年に圃場整備により現在地の地番に変更されている。春日社に奉納された絵馬 3 枚がこの地蔵堂に残されている。

・お堂と調査員



絵馬
白馬



(表)
奉納 敬白 安政五年九月中旬



(裏)
居邑 清左工門

黒馬



(表)



(表)

道場 沢次郎
同 与吉
同 作太郎

黒馬



○小矢部市金屋本江の聖徳太子二歳像についての所感

砺波地方を中心に聖徳太子二歳像(南無仏)は、約 300 体弱ある。その内小矢部市には 21 体を確認しています。それはほとんど石造であり、若干の木像も確認している。また多くは砺波市庄川町金屋から採掘されるグリーンタフ(緑色凝灰岩)で、金屋石工の製作がほとんどである。金屋本江の聖徳太子二歳像(南無仏)は金屋石ではなく、微粒な砂岩質と思われる。約六頭身の高さ 51, 5 cmのすらりとしたお姿である。このような緋の袴が長く、肩幅が狭い。目は細くいかにも二歳像(数え年で言いますので、満一歳)の幼児らしく、このようなお像は、この周辺小矢部市下後畝、下中、小森谷、砺波市若林に 2 体を確認しているお姿であり、小矢部市の石工の可能性が強い。

それにしても上半身は雪のような白い肌、緋の袴の彩色がきれい残っていることが貴重であり、現在令和 6 年(2024)で、制作年が明治 41 年(1908)なので、約116年間、この地域を守ってこられたことに、感謝し申し上げたい。

解説

富山県西部の農村地帯を歩くと際立って豪華なお堂を見付けることができる。そしてその中には、上半身裸で、腰に赤い袴姿の聖徳太子像であると告げられると、驚いたりする。

地元の人には「タイッシサマ(太子様)」と愛着と親しみをこめて呼んでいる。地藏様とはあいきらかに区別されている。富山県は石仏の悉皆調査が古くから行われ、その成果で多くのことが解ってきた。南無仏太子石仏もそれによって、全容が理解できるようになった。

・その分布

富山県内には南無仏太子石仏は約二百体強がある。それを地図上に落してみると、瑞泉寺を中心に半径二十キロメートルの範囲内に多くあり、特に瑞泉寺から北西の散居村の展開する地域、つまり砺波市北西、小矢部市南東に厚く分布していることがわかる。また丁寧に眺めると同じ真宗寺院である高岡市伏木勝興寺(浄土真宗本願寺派)の勢力圏、また城端町善徳寺(真宗大谷派)の勢力圏にこの太子像が少ないことが解る。勝興寺に近い高岡市吉久にあるものは、明治時代にこの地で消石灰を焼いていた砺波の人々の造立である。小矢部市の石川県境の山間地にある太子像石仏は、砺波地方から嫁いだ人の造立によるものである。

大沢野町松野にも、小堂にも南無仏太子像石仏が入っている。これは近くの石黒家の造立によるものである。これは石黒家の先祖は庄川町青島に住んでいたが、明治後期にこの大沢野町の台地の開拓に入られた時に、手次寺である井波町誓立寺から拝受されたものである。ここにはこの石仏にまつわる文書も残されている。

・造立の時期

明治十二年九月一日、瑞泉寺香部屋より出火して本堂や太子堂が全焼した。翌年十三年五月に棟梁松井角平により本堂の起工式が行われ、十八年には本堂が完成し、仮遷仏が行われた。この当時経済界は不況で、建築費の調達が思うにまかせなかった。そこで瑞泉寺の宝物である南無仏太子像や絵伝の巡回開扉や絵解きを行い浄財を集めるようになったのである。

南無仏太子像石仏の在銘年次は明治二十年頃から多くなり、大正七年瑞泉寺太子堂の建立までの間に集中して造立されている。ちょうど流行神のようである。

(参考)

井波瑞泉寺聖徳太子南無石仏の展開

尾田武雄

1、砺波地方の石仏の特徴

砺波市 1357 体 南砺市 1440 体 小矢部市 1788 体

- ①地蔵の造立が非常に多い。
- ②幕末、明治期に多くに造立された
- ③青年たちによる石仏の造立が多い
- ④石材は、主に地元の庄川町金屋から採掘された緑色凝灰岩、いわゆる金屋石を使用している
- ⑤金屋の石工と井波の石工
- ⑥路傍の石仏ながら、ほとんどがお堂の中に安置されている
- ⑦管理者が周知されている
- ⑧ゾーサマ（地蔵様）祭が継承されている。収穫祭の雰囲気がある。福岡町「つくりもんまつり」
- ⑨真宗王国の地でありながら石仏の種類が多い。石動山定着修験による珍しい石仏の造立がある。
- ⑩名号搭が多い。
- ⑪大岩日石寺磨崖仏の模刻石仏が多い
- ⑫井波町瑞泉寺太子堂に安置してある聖徳太子南無石仏が多く展開している

太子さま（聖徳太子南無石仏）

井波別院瑞泉寺と聖徳太子南無仏

- ・ 緯如上人と聖徳太子南無仏 瑞泉寺明徳元年（1390）開基 後小松天皇より太子自刻の南無仏を賜る
- ・ 太子伝会（タイシテン）と絵解き 江戸中期桃化上人の代に始まる
- ・ 道端や野に聖徳太子南無仏の石仏 タイッサマ ゾーサマと親しまれる

太子南無仏 造立の時期とその分布

瑞泉寺太子堂に安置される太子木像 高さ 64cm 肘幅 20cm 写實的に威風堂々

- ・ 野にある太子像 像容と特徴 合掌する二歳像 丸彫りで高さ約 30センチから 40センチ
- ・ 造立の時期とその分布 明治 20 年代から大正期

井波瑞泉寺から半径 20 キロ 瑞泉寺から北西の散村の展開するところに多い

太子南無仏の石仏と太子堂再建

造立した人々

- ・ 明治期は地域のシボルの 戦没者・若連中の記念神社・公民館
- ・ 若い青年たち、草相撲
- 大正期は、個人的な造立が多くなる 昭和前期は、ほとんど個人的な造立
- 大沢野松野石黒家 聖徳太子南無石仏の由来 野村島中ノ島聖徳太子講文書

太子像および法物の巡回

農閑期を中心に展開。その周辺に南無仏の石仏が多い

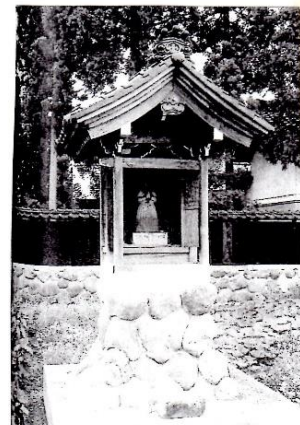
石工森川栄次郎と石材

森川翁墓碑 一生の間一千体の石仏を彫った

太子南無石仏の祭りとお堂

真宗大谷派の僧侶

飛びぬけ豪華なお堂



224 散居村の屋敷林の中にある太子堂（砺波市五郎丸）

(表1) 聖徳太子南無仏の年次在銘一覽

銘文	所在地
裏面に「安政二乙卯年」	砺波市鷹栖
台座に「明治廿子十一月作」	砺波市茶ノ木
台座に「明治二十六巳年四月建立」	砺波市野武士
台座に「明治二十七年八月」	砺波市高波
台座に「明治二十九年建立」	高岡市荒見崎
別石に「明治三十二年八月二十八日」	砺波市高波
台座に「明治三十二年九月十九日」	高岡市十日市
台座に「明治三十二年亥九月吉日」	小矢部市水牧
台座に「明治三十三年九月建立」	砺波市太田一区
台座に「明治三十七年建立」	高岡市戸出町狼
台座に「明治三十八年一月求之」	氷見市土倉
台座に「明治三十八年二月」	砺波市梅檀山
台座に「明治三十九年九月二十五日」	砺波市高波
台座に「明治四十一年十月六日」	高岡市十日市
左側面に「明治四十三年二月建立」	砺波市庄川町田畑
台座に「大正五年八月九日建立」	砺波市大窪
台座に「大正五年度」	富山市越中町外輪野
裏面に「大正十二年二月二十三日入魂」	砺波市新屋敷
台座に「昭和五年四月」	南砺市栄町
裏面に「昭和六年十一月」	高岡市福岡町大滝
台座に「昭和十年八月十一日安置」	富山市八尾町尾畑
裏面に「昭和三十六年七月二十二日」	南砺市見座

(表2) 聖徳太子南無仏造立年代別

地域	江戸	明治	大正	昭和	合計
砺波市	1	65	18	6	90
南砺市	0	19	9	35	63
小矢部市	0	4	2	16	22
射水市	0	8	1	2	11
高岡・氷見市	0	24	5	5	34
富山市	1	17	2	3	23
合計	2	137	37	67	243

(表3) 聖徳太子南無仏の分布

砺波市	南砺市	小矢部市	高岡市	射水市	氷見市	富山市	合計
91	63	22	37	10	1	19	243

(内訳)	
南砺市	
旧井波	6
旧福野	8
旧城端	3
旧福光	26
旧井口	1
旧利賀	9
旧平	10
旧上平	0
合計	63

砺波市内	
出町	9
庄下	2
中野	3
五鹿屋	4
東野尻	4
鷹栖	9
若林	6
林	9
高波	6
油田	3
南般若	3
柳瀬	1
太田	6
般若	5
東般若	1
梅檀野	6
梅檀山	6
庄川町	8
合計	91

高岡市	
旧市内	2
戸出	20
福岡町	8
他旧砺波部	7
合計	37

射水市	
旧小杉町	2
旧大門町	8
合計	10

富山市	
旧山田村	6
旧八尾町	6
旧越中町	5
旧大沢野町	2
合計	19

(表4)

造立者	造立の意図	数(体)
地域	地区のための地区民全体で造立	16
地域	若運中が何かの記念で造立	4
地域	戦没者の慰霊のために造立	6
団体	団体の発展のために	3
個人	若くして亡くなったのでその慰霊のために造立	19
個人	家族に健康祈願のために造立	4
個人	不慮の事故で亡くなりその供養のために造立	13
個人	太子供像が夢枕に立たれたので造立	2
その他		9
合計		76



207 砺波市野村島中ノ島太子堂



208 砺波市野村島中ノ島太子講

聖徳太子南無仏の分布

